

SGH事例発表

2739 啓明学院中学校・高等学校
(兵庫県)



学校概要

- 全日制普通科

- 男女共学

学年	男子	女子	小計
1	98	147	245
2	101	155	256
3	100	145	245
合計	299	447	746

高校入試

中学出身者

4クラス

高校入学

2クラス

- 私立学校

- キリスト教主義

- 関西学院大学の継続校
(創立者が同一)

生徒の95% 推薦入試で進学

1. 構想概要②

ソーシャルアントレプレナーシップを備えたグローバル・リーダーの育成

本校の教育の特色である価値観教育、野外教育、読書教育をベースに、

S G Hの研究では、**社会的課題への関心**を高め、深い教養と、問題解決力、

コミュニケーション力を培い、**ソーシャル・アントレプレナー**の実践により

自主性・協働性・多様性を身につけるカリキュラムおよび指導法を

大学・各機関との連携により開発する。

1. 構想概要③

ソーシャルアントレプレナーシップの定義

公と民の間に立つ、公共の精神をもちつつ、

世界がその解決を希求する深刻な**社会的課題**を

ビジネスで解決しようとするマインド

1. 構想概要④

ソーシャルアントレプレナーシップを備えたグローバル・リーダーの育成

- 仮説 a **フィールドワーク**や**ビジネスプラン**などの実践的な取り組みを経て、問題解決の過程において、自主性・協働性・多様性を身に付けることができる。
- 仮説 b 文献研究をベースにした探究型学習で思考の基礎力が養われ、問題解決に役立つ。
- 仮説 c 教員が教育ビジョンを 高いレベルで共有するとともに、大学・各機関の専門家との連携を高めながら、「教える人」から自ら「ソーシャル・アントレプレナーの手本」となるようにする。

1. 構想概要⑤

生徒中心のカリキュラムデザイン

- 制 度 **全校生徒を対象**とする。誰にでもチャンスがある。
- 生徒観 自覚を持って**学び始める時期**には、**個人差**がある。
 必修課程のうえに、自由選択の余地を確保する理由。
- 学習観 **お互いにモデル**となる。先行する生徒が刺激を与える。
 全校生徒で成果発表の機会を共有する。

教育課程や時間割上の工夫①

高校 教育課程表

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32		
1年	中入学	国語総合		日本史B		地歴特講		数学Ⅰ		数学A		化学基礎		生物基礎		体育		音楽Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ		英語表現Ⅰ		英語会話		社会と情報 A B		聖書		LHR					
	高入学	国語総合		日本史B		読書		数学Ⅰ		数学A		化学基礎		生物基礎		体育		音楽Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ		英語表現Ⅰ		英語会話		社会と情報 A B		聖書※		LHR					
2年	全	現代文B	古典B	世界史B		地理A		学術研究		数学Ⅱ		数学B		物理基礎		体育		保健		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅱ		家庭基礎		キリスト教学Ⅰ		選択		LHR					
3年	文系	現代文B		古典B		世界史B		日本史特講 世界史特講		現代社会		学術研究		数学特講		理科特講		体育		保健		美術		コミュニケーション英語Ⅲ		英語表現Ⅱ		家庭特講		キリスト教学Ⅱ		選択		LHR	
	理系	現代文B		世界史B		現代社会		学術研究		数学Ⅲ		物理 生物		化学		体育		保健		コミュニケーション英語Ⅲ		英書講読		キリスト教学Ⅱ		選択		LHR							

総合的な学習の時間
チャペルアワー

土曜選択講座 / 夏期集中講座 / 冬期集中講座

ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語
高3 3学期(4週間)第2外国語集中講座

※ 高校入学生に対して、聖書特別講座あり

- 高2選択科目
- ・英書講読
 - ・化学(高3理系希望者必修)
 - ・音楽
 - ・工芸
 - ・古典特講

- 高3選択科目
- ・英語特講(関学大文学部英米文学英語学・総合政策学部・国際学部希望者推奨)
 - ・数学演習
 - ・数学特講(理系)
 - ・仮称「平和学」
 - ・国際政治・国際経済
 - ・法律学(関学大法学部希望者推奨)
 - ・音楽
 - ・美術(理系)
 - ・社会学入門(関学大社会学部希望者推奨)

教育課程や時間割上の工夫②

カリキュラム

	科目名	総合的な学習の時間	
3年	「学術研究」* 1単位		講演会 (グローバルな社会課題) (ソーシャルアントレプレナーシップ)
2年	「学術研究」* 1単位	ビジネスプラン	海外フィールドワーク (シンガポール)
1年			

*英語による開講 2グループ

じっくり時間をかけて学ぶ。

2年次の文献研究を基礎とし、
3年次の個人研究へ進む。

社会課題に気づく機会を、
多方面から設ける。

教育課程や時間割上の工夫③

課外活動への展開

いつでも、だれでも

グローバル志向に目覚めたら

	ビジネスプラン	フィールドワーク							高大連携					
3年	土曜日選択講座 (ソーシャルビジネスプラン企画塾)	KGビジネスプランコンテスト	高校生ビジネスグランプリ	ビジネスプランコンテスト	東北復興スタディツアー	I'm a partner camp.	里山キャンプ in 丸山	マレーシアワークキャンプ	ミャンマースタディツアー	インド交流プログラム	高大連携科目 2単位	世界市民 明石塾	KGオールスターキャンプ	高校生国際交流の集い
2年														
1年														

学校設定教科・科目の設定とその運用①

科目名：「学術研究」(2年：水曜5限、3年：水曜6限)

- 目 標：**
- 1. ライフ・スタイルの「知」の形成をめざす**
 - 2. 自学自習のスキルを身につける**

学校設定教科・科目の設定とその運用②

科目名： 「学術研究」

履修年次： 2年、3年 **(2年間)**

規模： 19講座 1講座あたり最大15名

指導： **全教科の教員**

評価： 提出物、レポート、小テスト、プレゼンテーション

ルーブリック

学校設定教科・科目の設定とその運用③

2年次「学術研究」 文献リスト

2019年度

A. 人文科学

- ① 『文明の生態史観』
- ② 『ビギナズ・クラシックス 史記』を読む
- ③ 『ガンジー自伝』
- ④ 『音楽入門』
- ⑤ 『音楽史ほんとうの話』
- ⑥ 『スポーツは「良い子」を育てるか』
- ⑦ 『物語のレッスン 読むための準備体操』
- ⑧ 『ビギナズ・クラシックス 百人一首(全)』
- ⑨ 『ビギナズ・クラシックス 今昔物語集』
- ⑩ 『高慢と偏見』

B. 社会科学

- ⑪ 『黒人差別とアメリカ公民権運動』
- ⑫ 『入門 経済思想史 世俗の思想家たち』
- ⑬ 『**The Tipping Point : How Little Things Can Make a Big Difference**』
- ⑭ 『西太平洋の遠洋航海者』

C. 自然科学

- ⑮ 『中学生からの大学講義 3 科学は未来をひらく』
- ⑯ 『文系のための数学教室』
- ⑰ 『零の発見 数学の生い立ち』
- ⑱ 『はじめて学ぶ生命倫理』

2018年度

A. 人文科学

- ① 『**Seven Habits of Highly Effective People**』
- ② 『文明の生態史観』
- ③ 『ガンジー自伝』
- ④ 『探険と冒険の物語』
- ⑤ 『ハム演説集』
- ⑥ 『私は赤ちゃん』
- ⑦ 『音楽入門』
- ⑧ 『音楽史ほんとうの話』
- ⑨ 『人種とスポーツ 黒人は本当に「速く」「強い」のか』
- ⑩ 『物語のレッスン 読むための準備体操』
- ⑪ 『ビギナズ・クラシックス 万葉集』
- ⑫ 『夜と霧』
- ⑬ 『日本のいちばん長い日』

B. 社会科学

- ⑭ 『入門 経済思想史 世俗の思想家たち』
- ⑮ 『栽培植物と農耕の起源』

C. 自然科学

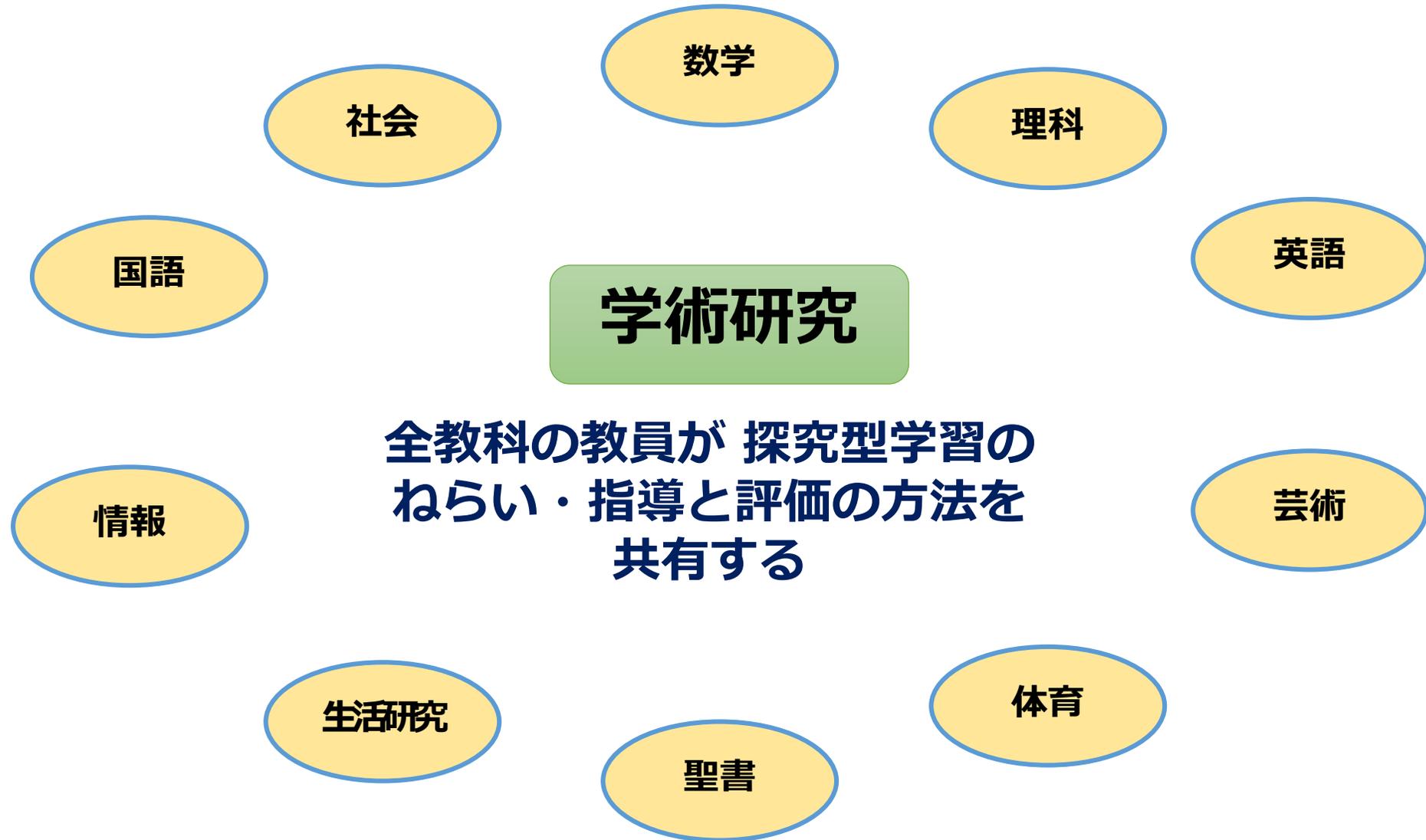
- ⑯ 『科学の考え方・学び方』
- ⑰ 『零の発見 数学の生い立ち』
- ⑱ 『数学物語』
- ⑲ 『沈黙の春』

学校設定教科・科目の設定とその運用④

科目名：「学術研究」

学年/時期	1学期	2学期	3学期
3年	オリエンテーション アウトライン、序論、本論 作成、中間発表	レポート完成 相互評価	「学術研究」発表会 代表者が発表 (口頭、ポスター)
2年	指定文献の分析読書 要約、解釈、批評	指定文献に関する 議論、発表	個人研究テーマ設定 発表会：口頭・ポスター発表 を聴く
1年		講座エントリーシート 作成	次年度のオリエンテーション 講座決定 発表会：口頭発表を聴く

教科間の連携、異なる教科の教員の関わり



各教科の授業でSGHがどのように意識されているか①

授業展開例

幅広い教養、主体的で深い学びへ

教科	授業展開、トピック
国語	協同学習、プロジェクト学習
社会	現代的な社会課題 「平和学」 「国際政治経済」 異文化理解 高大連携の科目 「法律学」 「社会学入門」
数学	統計基礎 「数学特講」 反転学習 ICT活用
理科	科学と現代社会の課題 「理科特講」 プロジェクト型学習 ICT活用
英語	ディベート、プレゼンテーション、スピーチ、ライティング、 ICT活用

各教科の授業でSGHがどのように意識されているか②

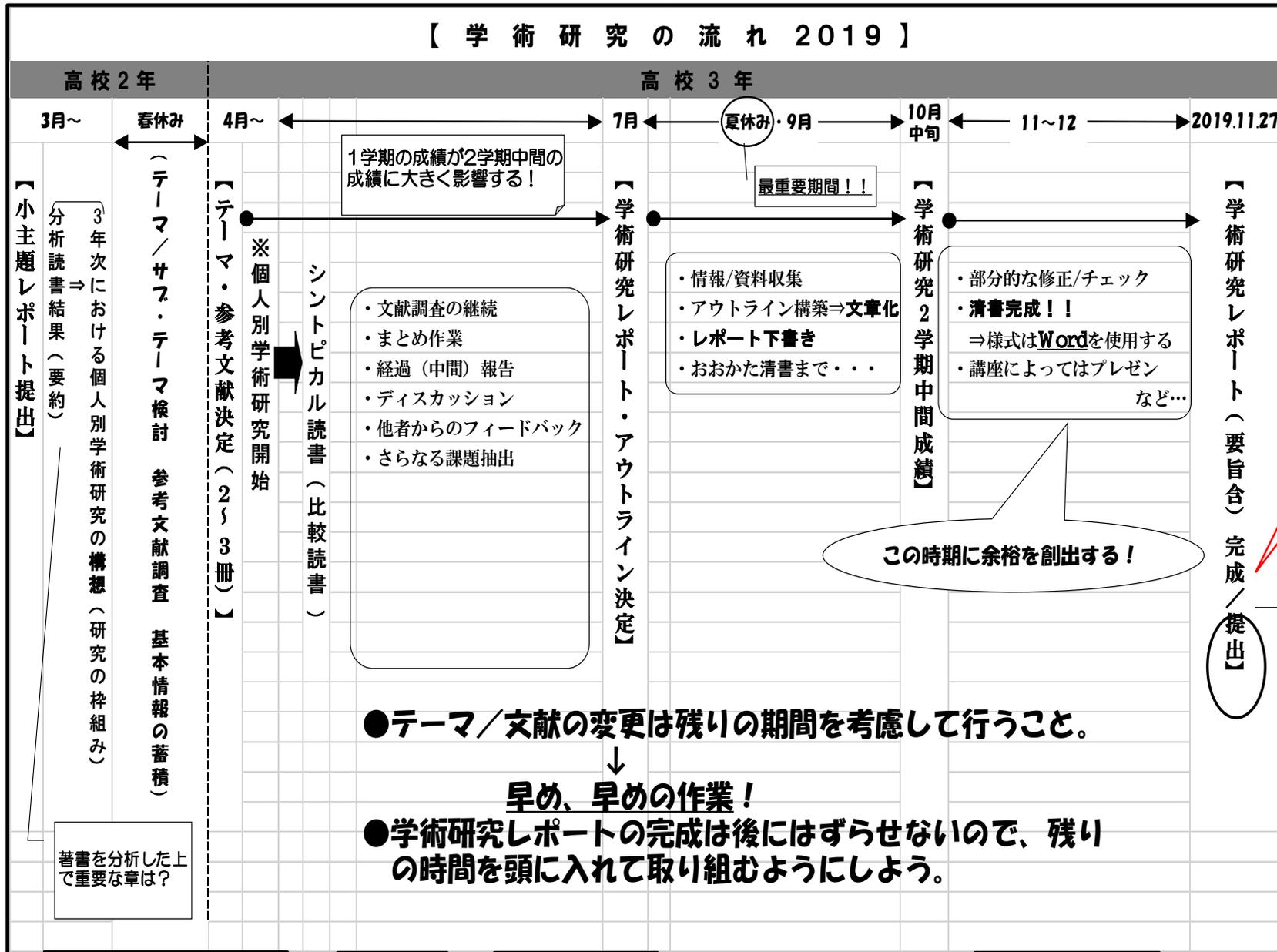
授業展開例

幅広い教養、主体的で深い学びへ

教科	授業展開、トピック
情報	情報リテラシー、Word, Excel, Power Point, HTML ICT活用
体育	協同学習
芸術	日本美術史、西洋美術史、音楽史、芸術鑑賞会 プロジェクト学習、ICT活用
聖書	キリスト教、西洋史、人権教育 協同学習、ICT活用

課題研究の指導の工夫①

【 学 術 研 究 の 流 れ 2019 】



課題研究の指導の工夫②

学術研究レポート ループリック

啓明学院高等学校

目次

<p>1 課題の設定 …………… 1 (問いの立て方・研究の意義) 学習の重要性や全体の理解 問いの設定理由</p> <p>2 研究計画の立案 …………… 1 仮説やアウトラインの作成 情報探索方法の選択 予定表の確認と実施</p> <p>3 情報の収集と選択 …………… 2 検索キーワードの設定 目録やリスト インターネット さまざまな情報源の利用 外部資料の活用</p>	<p>4 情報の整理と分析 …………… 3 (本論の構成) 情報の整理方法 事実と意見の区別 数値データの取り扱い 情報の分類と関係 問いとの関連性 論証</p> <p>5 情報のまとめ …………… 4 (結論・全体構成) まとめの構成 情報のまとめ 文体・書式</p>	<p>6 情報の表現・発信 …………… 5 聞き手 聞く姿勢・態度 質問の仕方 発表者 タイミング・時間配分 発表内容・デザイン 声の大きさ 話し方 目録や態度 回答の姿勢・態度</p> <p>7 確かな情報の利用 …………… 6 引用の方法 脚注(出典の明記) 脚注(補定情報) 情報の信頼性の検討 肖像権やプライバシーへの配慮</p> <p>8 学習活動の評価 …………… 6 問いの解決と課題 学習過程の評価</p>
---	---	--



ループリックの開発

自己評価

相互評価

教師による評価

	C	B	A	S
3 情報の収集と選択	<p>検索キーワードの設定</p> <p>情報検索のためのキーワード(検索語)を考えただが、四つ以下しか思い浮かばなかった。</p> 	<p>情報検索のためのキーワード(検索語)を五つから六つ考えることができた。</p> 	<p>情報検索のためのキーワード(検索語)を六つ以上考えるだけでなく、それらを組み合わせるなどして検索することができた。</p> 	<p>情報検索のためのキーワード(検索語)を六つ以上考えるだけでなく、それらを組み合わせ、連想(上位・下位、同義・対義・類義等)検索することができた。</p> 
目録やリスト	<p>学校内や公共図書館などのOPAC(蔵書検索)、リスト機能やリンク集を利用できなかった。</p>	<p>学校内や公共図書館などのOPAC(蔵書検索)、リスト機能やリンク集を利用できた。検索項目については著者名、書名、件名などの内、一つしか入力して検索できなかった。</p>	<p>学校内や公共図書館などのOPAC(蔵書検索)、リスト機能やリンク集を利用できた。検索項目については著者名、書名、件名などの内、複数を組み合わせて検索できた。</p>	<p>学校内や公共図書館などのOPAC(蔵書検索)、リスト機能やリンク集を利用できた。検索項目を複数組み合わせ、検索結果を参考にキーワードや検索式を修正・活用できた。</p>
インターネット	<p>推奨されたウェブサイト(行政や団体などの公式サイト)があるのを理解していたが、利用しなかった。</p>	<p>推奨されたウェブサイト(行政や団体などの公式サイト)を利用した。</p>	<p>推奨されたウェブサイト(行政や団体などの公式サイト)を利用した。さらに、それ以外にもウェブサイトを利用して検索できた。</p>	<p>推奨されたウェブサイト(行政や団体などの公式サイト)を利用した。さらに、それ以外にもウェブサイトを利用して検索できた。フレーズ検索、ドメイン検索、画像検索などの検索オプションも効果的に利用できた。</p>
さまざまな情報源の利用	<p>問いを解決するために選択した情報源は二つ以下であった。</p>	<p>問いを解決するために選択した情報源は三つであった。情報源として選択したのは、1種類のみであった。</p>	<p>問いを解決するために選択した情報源は三つであった。情報源として選択したのは、図書資料・新聞や雑誌・インターネット情報・データベース情報の内の、2種類であった。</p>	<p>問いを解決するために選択した情報源は四つ以上であった。情報源として選択したのは、図書資料・新聞や雑誌・インターネット情報・データベース情報の内の、3種類以上であった。</p>
外部資料の活用	<p>問いを解決するのに有用な外部団体や専門機関を調べなかった。</p>	<p>問いを解決するのに有用な外部団体や専門機関を見つけ、関連図書資料を探した。しかし、直接連絡することはできなかった。</p>	<p>問いを解決するのに有用な外部団体や専門機関を見つけ、関連図書資料を探した。さらに、直接連絡をとり、情報を入手できた。</p>	<p>問いを解決するのに有用な外部団体や専門機関を見つけ、関連図書資料を探した。さらに、直接連絡をとり、情報を入手できた。その上、入手した情報が問いの解決に有用か判断(取捨選択)できた。</p>

課題研究の指導の工夫③

校内での成果の共有方法

SGH報告会（「学術研究」発表会）

口頭発表(全校生徒で)

ポスター発表(2・3年生で)



課題研究の指導の工夫⑤

「総合的な学習の時間」

啓明ビジネスプランコンテスト 2018

事前学習	中学生	その1	→	6/1(金)		
	高1・高2	その1	→	6/13(水)	その2	} 7/12(木)
	高3	その1	→	6/6(水)		



プラン作成 中学生：個人で。高校生：個人またはグループ（3人以内）で。



クラス審査 中学生：9月5日(水) 高校生：9月6日(木)
6グループに分かれ上位2作品ずつ選ぶ。各クラス12作品ずつ。



専門家審査 9月中 上位10作品決定

アランチアップ合宿 10/20(土) 21(日)



KGビジネスプランコンテスト 11/25(日)

啓明ビジネスプランコンテスト 12/13(木)

成果の共有方法

クラス審査：**クラス**生徒



合宿：**選抜された**生徒



最終審査：**全校**生徒

成果や課題、それを示すエビデンス①

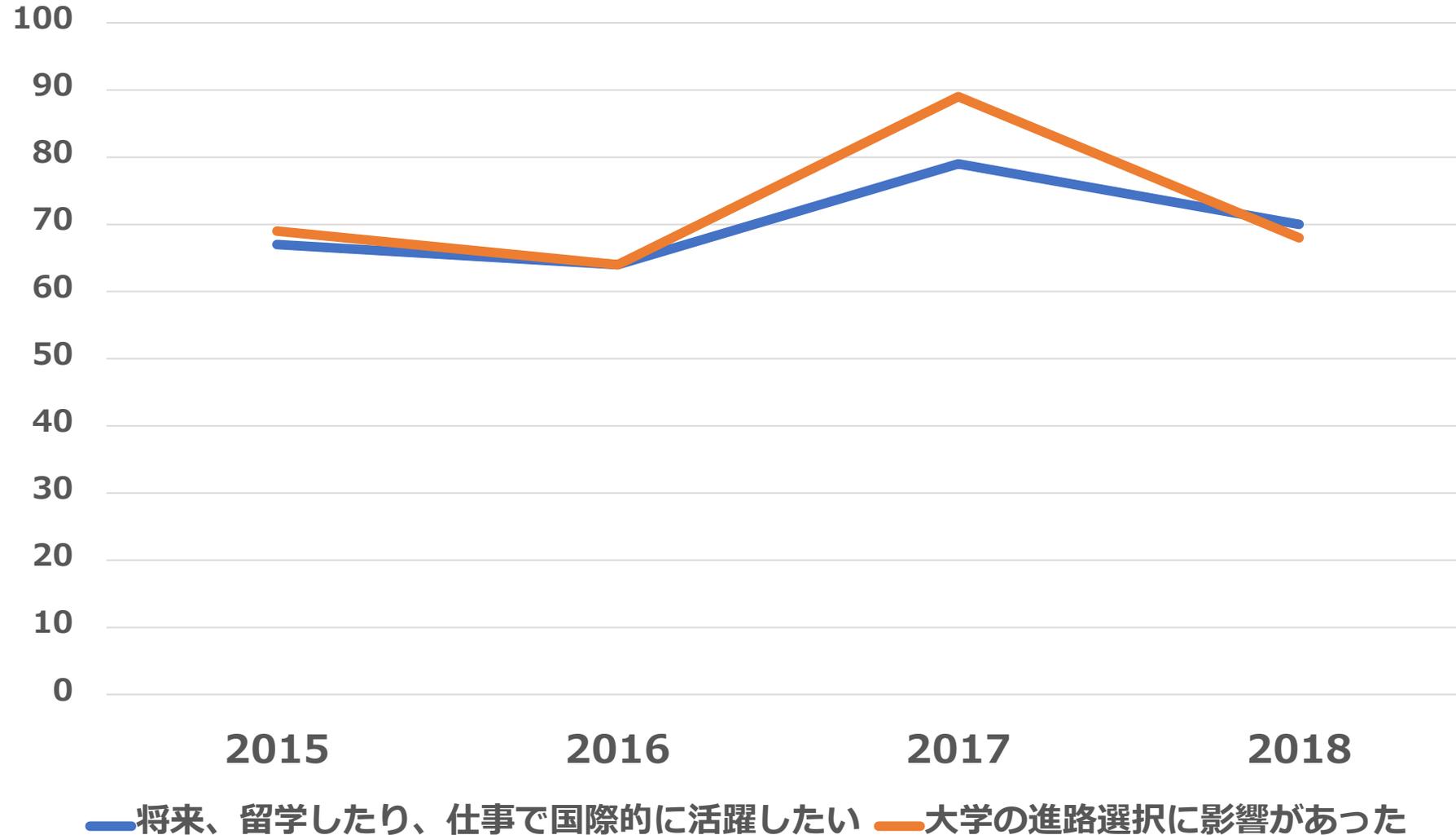
エビデンスの収集

調査		調査主体	対象		
内容	データ種類		在校生	卒業生	教職員
意識、意欲、活動実績等	量的	SGH推進室	○	○ ※	○
課題研究テーマとSDGsの関連	量的	SGH推進室	○	-	-
自身の変化、自身への影響	質的	京都大学 大学院	○	○	○

※関西学院大学の協力含む

成果や課題、それを示すエビデンス②

生徒にSGHプログラムが与えた影響 卒業時

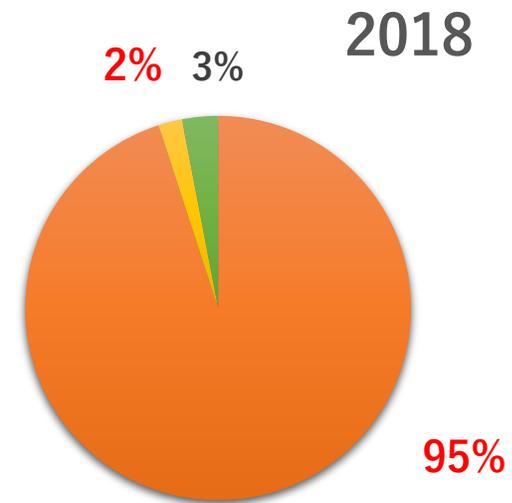
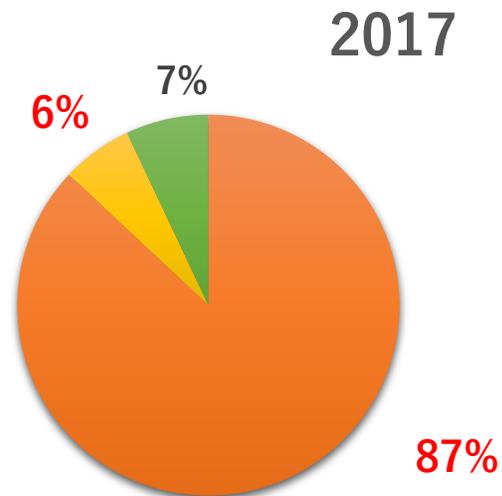
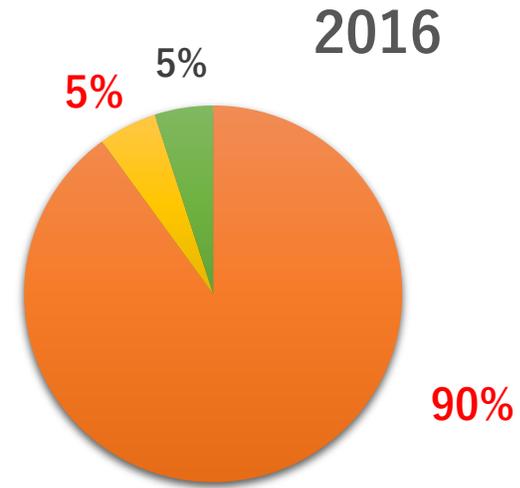
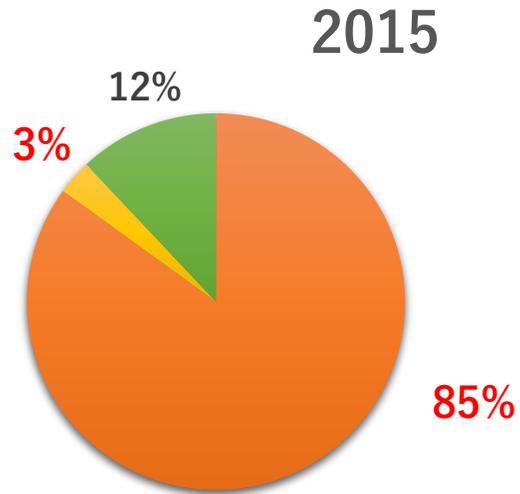


成果や課題、それを示すエビデンス③

総合的な英語力

CEFR B1~B2レベル

卒業時



■ 英検2級 ■ 英検準1級以上 ■ 英検準2級

成果や課題、それを示すエビデンス④

海外留学、海外研修 参加者数 大学進学後

関西学院大学へ進学後、大学が提供したプログラムに限る。（資料提供、関西学院大学2019年3月）

SGH指定	目標値	参加者数	備考
1年目	30人	49人	現大学4年生
2年目	30人	74人	現大学3年生
3年目	30人	34人	現大学2年生



成果や課題、それを示すエビデンス⑤

今後の課題： 概念の言語化と取り組む意欲 卒業時

年度	2017	2020までの 達成目標
ソーシャルアントレプレナーシップについて説明できる	58%	70%
ソーシャルビジネスについて説明できる	52%	70%
将来、ソーシャルアントレプレナーになりたい	34%	40%
現在、ソーシャルビジネスに関わっている	7%	10%

海外研修等

【必修】

2年次 シンガポール

ねらい：異文化理解への導入

【希望者】

①ミャンマースタディーツアー

②インド交流プログラム

③マレーシアワークキャンプ

④その他

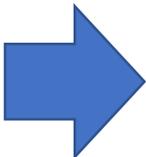
ねらい：社会課題発見・解決

トビタテ！留学JAPAN(2019年)

応募:11人

認定: 1人

留学または海外研修への個人参加



年度	2015	2016	2017	2018
人数	71人	132人	111人	104人

特徴的な取組①

ミャンマースタディーツアー

【目 的】

- ・ 異文化受容力を養成する。
- ・ 現場主義への気づきを育む。
- ・ 開発途上にある国の現状を知る。
- ・ ソーシャルビジネスの実例に触れる。

【内 容】

主 催 : 啓明学院
企 画 : 啓明学院、一般社団法人 裸足醫チャンプルー
協 力 : Barefoot Doctors Group Myanmar
期 日 : 2018年8月23日(木)～30日(木) 7泊8日
場 所 : ミャンマー



年度	2017	2018	2019※
参加者数	49人	15人	16人

※予定

特徴的な取組②

ミャンマースタディーツアー

【研修概要】

2018年

- 1日目 : ヤンゴン到着
- 2日目 : モーラミヤイン / 多民族国家の実情
- 3日目 : タンビュツザヤ / 泰緬鉄道を知る
HIV感染児童支援施設訪問
- 4日目 : チャイティーヨ / ビルマ族の聖地ゴールデンロック参詣
- 5日目 : タンタウンジー / カレン族の聖地ナウブーバウ
祈りの山参詣
タウンゲー / タウンゲー 八角平和計、YMCA
ユース現地青年とのワークショップ
- 6日目 : ネーピードー / 異色の首都の現状を見学、
ネーピードーYMCA活動見学
- 7日目 : ヤンゴン / 日本人社会起業家の講演とワークショップ、
シュエダゴンパヤー参詣
- 8日目 : 帰国

2739 B 10:50-10:58,11:35-11:43 / Panel No.94

啓明学院中学校・高等学校
Keimei Gakuin Junior and Senior High School

All Japan Super Global High School Forum 2018

The Educational Problems and Outlook that Emerged Through Myanmar Study Tour

2739 Keimei Gakuin Junior and Senior High School
HAYASE Anju, FUJIE Sara, KONISHI Miku, FURUSE Kazune

On August 23, we visited Myanmar for study tour to find its social problems, where we saw the reality of a developing country. While we were there, we heard their real voice through discussion with local students and considered what we can do to solve the social problems. We would like to introduce what we learned through this experience.



Discussion with the Youth of Myanmar
We discussed social problems and educational issues with local students. They shared their experiences and challenges, which helped us understand the reality of Myanmar better.

Visiting an HIV Care Home
We visited an HIV care home and met with children affected by HIV. They shared their struggles and the impact of the disease on their lives.

Meeting Children on the Golden Rock Site
We met with children on the Golden Rock site, a sacred place for the Karen people. They shared their traditions and the challenges they face in their community.



education

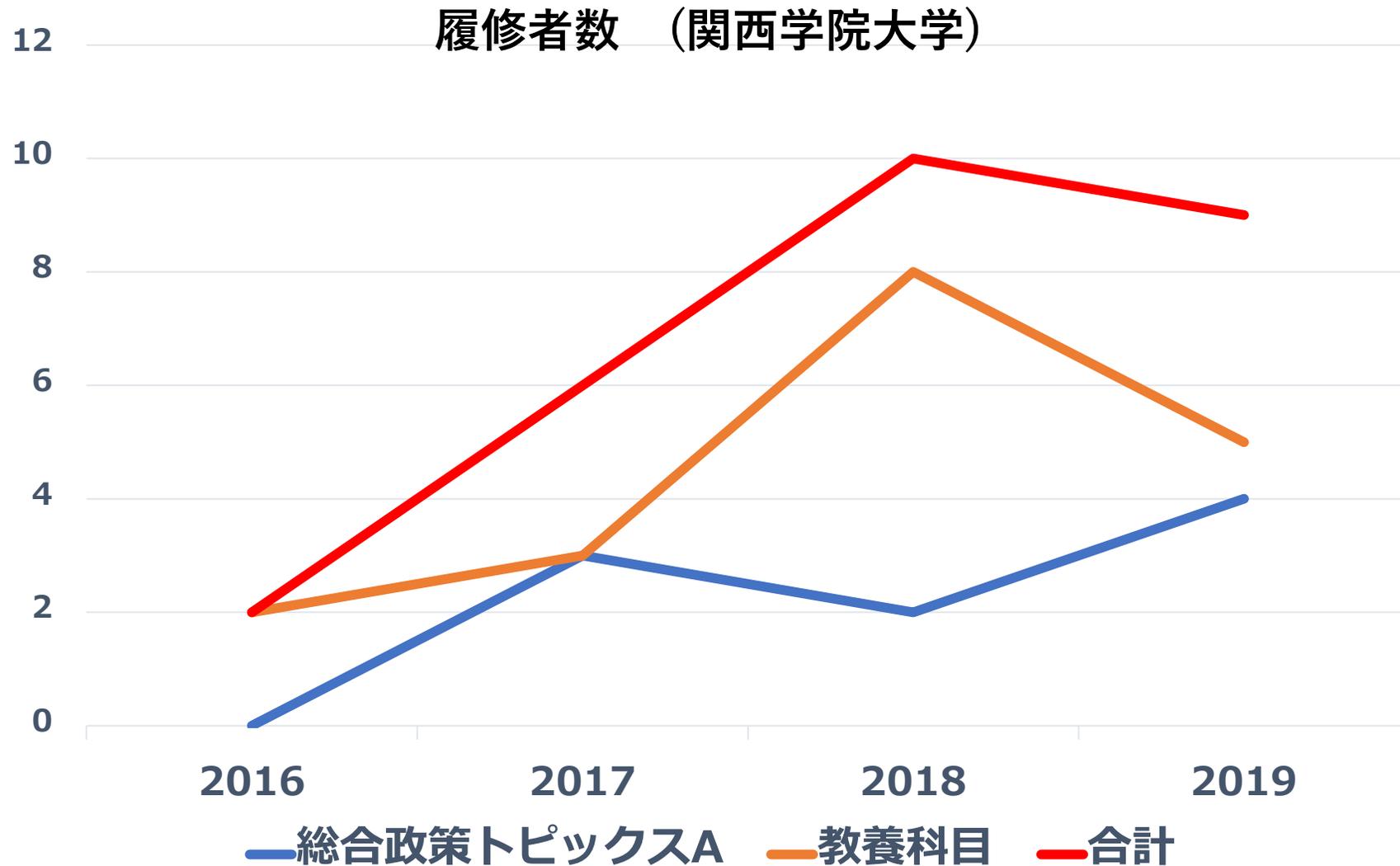
employment

poverty

The lack of employment leads to poverty. Poor child cannot get education. Uneducated and inexperienced people won't be employed or hired. In this way, poverty, poor education and unemployment will continue for the following generations. Going through these experiences such as visiting HIV home, and Golden Rock, we realized the necessity of education. We believe, the educational problem is the biggest issue. Education first. We are blessed with a good educational environment in Japan. What we can do for now is learning.

特徴的な取組③

Advanced Placement(AP) 早期単位取得制度



3. 管理機関としての取組について 支援の取組や管理方法・体制①

- SGH推進室 推進委員会の設置**
- 雇 用 : 外部講師、Teaching Assistant(TA)、事務職員**
- 生徒が発表する機会の充実**
- 開発計画の検証・フィードバック (研究機関、運営指導委員会)**
- 教員研修の充実**

3. 管理機関としての取組について 支援の取組や管理方法・体制②

SGH推進室

副校長 2名(SGH担当、教務担当)、SGHアドバイザー、
SGH推進室長、SGH推進室次長、
学院事務室長、学院事務室次長、SGH事務職員

SGH推進委員会

中学／スタッフ	高校1年	高校2年	高校3年
1名 (教務主任・社会科)	1名(数学科)	1名 (理科)	2名 (社会科)
1名 (社会科)		1名 (体育科)	1名 (英語科)
1名 (数学科)			

4. 成果課題、成果普及について

- 成果発表会 一般公開
- 公開授業
- コンテスト・大会への参加
- ホームページ
- 報告書 印刷物



5. 事業の継続(今後)について

実施継続する

これまでの人的・組織的ネットワーク活用
経費は管理者負担

支える体制

カリキュラム検討委員会 (2018年度～)

ICT教育環境 (2018年度～)

- ① プロジェクター 高校全教室
- ② タブレット端末 全生徒 e-Portfolio
全教員 (2019年度～)
- ③ ラーニングコモンズ (多目的ホール)
- ④ システムエンジニア 通年雇用

